

令和 7 年度第 2 回鹿沼市上下水道事業経営委員会議事録

《日 時》令和 7 年 10 月 27 日（月） 午後 2 時～午後 4 時 00 分

《場 所》鹿沼市役所本庁舎 2 階 第一委員会室

《出席委員》池田 裕一・佐藤 秀紀・落合 一江・神家満 晃（敬称略）

《事 務 局》北島上下水道部長 峯田企業経営課長 関口水道課長

高久下水道担当主幹 亀山下水道担当兼係長事務取扱

大門水道担当兼係長事務取扱 荒井水道課長補佐兼給水係長

平野水道経営係長 石川下水道経営係長 柳田料金係長

《経営戦略改定支援業務委託業者》ビズアップ公共コンサルティング（株）

コンサルティング部 南澤 淳 山田 賢吾

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 事

事務局：本日の議事の進行につきましては、上下水道事業経営委員会条例第 6 条 1 項の規定により、池田委員長に議長をお願いいたします。

委員長：しばらくの間、議長を務めさせていただきますが、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。

本日の会議の内容については、鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第 10 条の規定により、後日会議録として公開いたします。

(1) 水道事業経営戦略改定版（素案）について 資料 1 資料 2

事務局：資料 1、資料 2 に基づき、水道事業経営戦略改定版の現時点での素案（主に 3 章、4 章）について説明

(2) 下水道事業経営戦略改定版（素案）について 資料 1 資料 3

事務局：資料 1、資料 3 に基づき、下水道事業経営戦略改定版の現時点での素案（主に第 3 章、4 章）について説明

委 員：水道事業 23 ページ投資の予測 162 億円、また、主な事業別の予測、例えば 2.1 億や 27.7 億は表中のどこを見ればその数字が出てくるのか。説明している合計が出てこない。この表でよいのか。

事務局：23 ページも 24 ページも表の右側に 10 年間の合計を表示したい。

委 員：水道事業において、料金を 32%改定と 15%ずつ改定するというシミュレーションの意図は何なのか。なぜ 2 本建てなのか。経営戦略としてどう考えているのか。何をもって 2 つを比較しようとしているのか。

昨年、下水道使用料の改定の議論の際は、結論を出さなければならないということで議論して改定率が決まったが、今回は経営戦略であり、これからこう考えますというものであるのに、なぜ 2 つシミュレーションしているのか。

32%改定することで目標達成が可能になるとあるが、ここだけ見たらこれだけ改定しないといけないのかと思うだけ。32%と 15%を並べてどちらを取るかというのは経営戦略としては違うのではないか。

また、資料 3、下水道事業の 26 ページ有収水量のグラフの意図は。全体として減少するというのはいいが、一見すると公共下水道の割合（青色）がなくなってしまふように見える。何をこのグラフで表したいのか。

例えば、グラフの縦軸の目盛りをゼロからにして途中波線を入れる、（農集、特環、公共の割合を）パーセントで表示するなど。このグラフの言いたいところが曖昧である。

事務局：まず、水道事業においては下水道使用料改定の際と同様に複数のシミュレーションを行ったところ。経営戦略において必要かどうかは検討したい。

また、構成の順序として、現在は目標があって投資財政計画となっているが、説明としてはこういう計画だから目標を設定して進めていくという方が説明しやすいと思う。経営戦略の体系は国が示すひな型に合わせて作成している。見せ方としてシミュレーションがどのような意味を持っているのか、改めて検討させていただく。

委員：15%プラス 15%、合わせて 30%と言われればそうかとは思いますが、いきなり 32%上げて出来上がりましたと言われて、市民はどう思う（驚くだろう）か。そうはならない説明を。

事務局：ご指摘の資料 3 の 26 ページ、有収水量の予測のグラフについて、一見、公共下水道が農業集落排水より少なく見えてしまう。そこは工夫したい。

委員：資料 2 の 35 ページ、36 ページで令和 11 年度に料金改定をするというのは、営業収益が徐々に下がってきたということを根拠にしているのか。

事務局：32 ページ中、利益積立金（M）の行が令和 11 年度には約 1 億になる。水道料金収入は 2 カ月で 2 億円程度であるが、この積立金は事故等に備え（料金収入がなくなった場合）残しておく想定をしている。令和 12 年度には 0 円になる予測のため、令和 11 年度に改定という根拠とした。

委員：足利市は一気に 49.4%料金改定ということでインパクトは相当ある。市民の反応はどうか。改定も段階的にすれば上がったという感覚は薄れるのではないか。鹿沼市の場合でもそれ（段階的に上げること）によって積立金を増やしていくことが可能なのではないか。

事務局：その通り。

委員：そういうことも検討はしたのか。

事務局：国も 3 年から 5 年ごとに料金を上げる上げないにかかわらず見直しをするようにという指針が示されている。そういう意味で令和 11 年と 16 年に見直し（改定）を設定している。

委員：（下水道使用料は）令和 8 年 4 月から改定になると思うが、それを見込んだ収入となっているのか。

事務局：下水道事業は改定を見込んだシミュレーション、使用料収入となっている。

委員：下水道使用料は令和 8 年 4 月に改定するため、シミュレーションでもそれほど上げなくても済むという試算になっているという理解でよいのか。

事務局：その通り。

委員：水道は見直していないので一気に改定するか、2 回に分けるかという感じか。

事務局：その通り。

- 委員：この戦略はどのような人に公開するものなのか。数字を細かく見る人でないと本当のところまで理解してもらうのは難しいだろう。
- 投資・財政計画も単に数字を表にするのではなく、折れ線グラフにより、収入と支出を表し、交わったところ、あるいはマイナスになるので料金改定を行うとするなど、図解などで見せ方の工夫が必要ではないか。
- 料金や収入はまだ分かるが、投資財源となるとますます分からない。パブリックコメントを求めるのであれば分かりやすさも必要。また、世代を通じた分かりやすさも必要。
- 委員：今回は数字が多く、市民代表としてはこれを読み解くのは非常に難しい。10年のシミュレーションは必要なのだと思うが、例えば3年後にはこのようになっているとしピックアップした表にしてもよいのかと思う。
- また、設定目標において、料金回収率100%の維持というのは非常に難しく、そうなると料金改定は必然的になるのだろう。
- 報道等を見ていると管路の老朽化や人口減少、技術面でもノウハウを知っている人が少なくなる、金銭的な面と労働力の面で大変だということがこの委員会に出席することでよく分かった。
- 委員：資料2の24ページで令和8年度、9年度の（財源として）国県補助の額が大きいのは、南摩ダムにかかる費用（に対するもの）だということだが、そのあとは全く費用がかからないのか。
- 事務局：一時的に支払う建設負担金を投資として掲載している。維持管理費については、32ページ、営業外収益の補助金、その他補助金で令和9年度2,860万、令和10年度5,200万とあり、財源としては県からの負担金収入を見込んでいる。維持管理費としては令和9年度から維持管理費の一部負担もある。
- 委員：シミュレーションの表が数字が多すぎる。100万単位でもよいのでは。何年にどうなるというのは説明用のグラフがあってもよいと思うが。
- 事務局：パブリックコメントを行う際は、概要版も作成する。見せ方としては検討したい。財政収支計画も国の基準に基づき記載しなければならないが、概要版については端数を調整するなど、伝えたい部分を抜粋して作成したい。
- 委員：経営戦略なので千円単位で掲載するということが必要なのではないか。
- 委員：経営戦略とはどういうものなのか。今後の予測をし、不足するから料金を改定するということが、何かもう少しないのかと感じる。将来に向けてどうするのかという理念ではなく、具体的なものがあれば戦略らしいものが出てくるのでは。新たなものを加えていくようなものがあれば。
- 委員：目次を見ると、「はじめに」、「現状」とあり、今日は3章から（説明に）入り、前段の経営状況分析の説明がなかった。普通なら現状があって選択になる。人口動態だけしか加味していないように感じる。他に環境の変化や社会情勢の変化があるのではないか。事業に関係する部分があればそこも参考にするようにしないと。戦略が明確になると分かりやすくなるのでは。
- 委員：理念も方針も今と変わらずそのままだが。
- 委員：変わらずでいいという根拠もない。
- 委員：方針につながるような流れがあれば。
- ビズアップ：水道事業において、複数のシミュレーションがあることについては、国の経営戦略のガイドラインによるものである。現状の料金で試算を行うと赤字となったため、解決策として複数のシミュレーションを示したものである。

4. その他

○地域再生計画について 資料 4

事務局：資料 4 に基づき、目標および実績（目標達成）について説明。

「地域再生計画」の完了の際には、学識経験者等の第 3 者の意見を求めて事後評価を行うこととされており、先日（10/20）、本委員会の委員長である池田先生に評価を依頼。目標が達成され、事業の効果はあったとの評価をいただいたため、この場で報告とさせていただきます。

委員：目標 3「新規就農者の獲得」で目標値 76 人に対し実績 132 人とあり、倍近く新規就農者の獲得ができたが、もう少し内容を説明いただければ。現在、米（不足）の問題で、就農者の獲得が話題になっているため、鹿沼市の取り組みを聞きたい。

事務局：地域再生計画については、農業用水をきれいにする、公共下水道や浄化槽の整備により生活基盤を整えるということである。「新規就農者の増」はほんの一部の要因にしかないと思っているが、他の取り組みとして新規就農者に対して補助金を交付することで大きな増につながったのではないかな。

委員：参考までに補助金額はいくらか。

事務局：そこは把握していない。

委員：新規就農者のうち、どんな種類のものか。

事務局：細かいところの資料は持ち合わせていないが、鹿沼市は苺に力を入れているので、そのあたりで就農者が増えていると聞いている。

○下水道汚泥資源の肥料利用について 資料 5

事務局：資料 5 に基づき、下水道事業の経費削減の取り組みである「下水道汚泥資源の肥料利用」について、実証実験中の福島県視察（10/10 現地視察）の状況を報告。

○経営戦略改定業務の今後のスケジュールについて 資料 1

事務局：第 3 回については令和 8 年 2 月に予定している。詳細は改めてご案内させていただく。また、パブリックコメントについては第 3 回目の委員会開催と同時に実施する予定である。

6. 閉 会

～配布資料～

- ・ 次第
- ・ 委員名簿（変更後）
- ・ 経営戦略（素案）について 資料 1
- ・ 水道事業経営戦略（素案）改定版について 資料 2
- ・ 下水道事業経営戦略（素案）改定版について 資料 3
- ・ 地域再生計画について 資料 4
- ・ 下水道汚泥資源の肥料利用について 資料 5